

KAWASAKI L4 Bus Project

今年度の実証実験は大型の国産自動運転バスを加えてパワーアップ！

川崎市は、令和 9 年度の自動運転バスのレベル 4※実装を目指して、「KAWASAKI L4 Bus Project」を進めています。今年度は、様々な移動需要への対応や事業性を検証するため、昨年度導入した中型バス「Minibus2.0」の 1 台に加えて、いすゞ自動車製の国産大型バス「ERGA」の 1 台を新たに使用し、計 2 台で実証実験を行います。これにあたり、川崎市は、国土交通省から自動運転社会実装推進事業の重点支援（全国 10 箇所程度）に採択されました。この事業への採択は 2 年連続となります。

また、令和 6 年 4 月に設立した自動運転バスのレベル 4 実装に向けた取組を推進する「川崎市自動運転実装推進協議会」に、新たなメンバーを加え、プロジェクトを加速していきます。

なお、今年度の運行につきましては、秋頃の開始を予定していますので、詳細が決まり次第、お知らせいたします。

※レベル 4 とは場所や天候、速度などの特定条件下で、システムが車の全ての運転操作を担う完全自動運転のことです。

1 今年度の実証実験の概要

【ポイント】

- ① 中型バスのティアフォー製 Minibus2.0 に加えて、国産大型バスのいすゞ自動車製 ERGA で実証運行を行い、複数台の自動運行を検証
- ② 2 つの路線バスの営業路線において、運賃有料の実証運行を実施（Minibus2.0 のみ）
- ③ レベル 4 運行に向けて延べ約 140 日間の長期間、レベル 2 で運行し、許認可に必要なデータを取得

【車両】



大型バス ERGA
(いすゞ自動車製)



中型バス Minibus2.0
(ティアフォー製)

車両サイズ	大型バス	中型バス
車両名	ERGA	Minibus2.0
車両メーカー	いすゞ自動車	ティアフォー
乗車定員	24 名	16 名
最高速度	40km/h	35km/h

※乗車定員、最高速度は自動運転時の数値

※乗車定員は運転席含む

【運行ルート、走行期間】

<羽田連絡線>

世界への玄関口である羽田空港エリアと川崎を結ぶルート



走行期間：7 月～11 月（準備走行含む）

走行車両：中型・大型バス

<川崎病院線>

1 日 30 万人が利用する川崎駅と病院を結ぶルート



走行期間：11 月～1 月（準備走行含む）

走行車両：中型バス

2 川崎市自動運転実装推進協議会に新たなメンバーが加入

令和6年4月に設立した自動運転バスのレベル4実装に向けた取組を推進する「川崎市自動運転実装推進協議会」に新たなメンバーを加え、国産大型バスの活用や社会受容性の取組を行うなど、プロジェクトを加速します。

協議会構成員

構成員	代表者	所在地	主な役割
川崎市	市長 福田 紀彦	川崎市川崎区 宮本町 1	事業主体
川崎鶴見臨港バス 株式会社	取締役社長 野村 正人	川崎市川崎区 中瀬 3-21-6	運行事業者
A-Drive 株式会社	代表取締役社長 岡部 定勝	横浜市港北区 新横浜 3-2-3	総合調整、レベル4実装・許可取得に向けた支援
アイサンテクノロジー 株式会社	代表取締役社長 加藤 淳	名古屋市中区 錦 3-7-14	高精度 3Dmap の作成、車両運行支援・調律、レベル4許可取得に向けた支援
株式会社京三製作所	代表取締役社長 國澤 良治	横浜市鶴見区 平安町 2-29-1	信号協調システム
株式会社ティアフォー	代表取締役 CEO 加藤 眞平	品川区北品川 1-12-10	車両開発
損害保険ジャパン 株式会社	代表取締役社長 石川 耕治	新宿区西新宿 1-26-1	自動運転専用保険およびリスクアセスメント提供支援
LocaliST 株式会社	代表取締役 有吉 亮	千代田区丸の内 1-11-1	社会受容性に関する企画運営
KDDI 株式会社	代表取締役社長 CEO 松田 浩路	千代田区飯田橋 3-10-10	通信提供・通信調査
いすゞ自動車株式会社	常務執行役員 佐藤 浩至	横浜市西区高島 1-2-5	車両開発および提供
筑波大学 システム情報系	教授 谷口 綾子	つくば市天王台 1丁目 1-1	社会受容性に関する企画運営
多摩大学経営情報学部 樋笠 堯士ゼミ	准教授 樋笠 堯士	多摩市聖ヶ丘 4-1-1	社会受容性に関する企画運営

※順不同

※協議会は、会長を川崎市まちづくり局長、副会長を川崎鶴見臨港バス担当役員が担います。

※下線部が、令和7年度から協議会に参画いただいた構成員です。

問合せ先
川崎市まちづくり局交通政策室 藤島
電話 044-200-1485